

令和4年9月22日(木)

(山陰中央新報)初めに市長のほうからよろしく願います。

(上定市長) 皆さん、こんにちは。秋になりました。秋になりましてちょっと涼しさを感じられるようになりました。寒暖の差が激しくなっておりますので、体調には十分お気をつけください。今日はそういった秋を感じさせるようなイベントについてもご紹介してまいります。

まず、新型コロナウイルスのワクチン接種についてです。重症化予防、感染予防、発症予防を目的として、オミクロン株対応ワクチンによる接種を開始します。対象は、2回目の接種を終えた12歳以上の全ての人になります。接種間隔は前回の接種から5か月以上ですが、今後短縮の可能性もあります。実施期間は、10月1日から来年の3月31日までを予定しています。接種会場はこれまでと同様に、くにびきメッセ、市立病院がんセンターで集団接種を、個別接種を各医療機関において順次開始する予定です。3回目用または4回目用の接種券をお持ちの方は、9月22日から予約が可能です。接種券をお持ちでない方は前回接種から5か月経過すると市から送付される接種券の到着から予約できます。また、12歳以上の方の1、2回目接種、5歳から11歳までの接種も引き続き実施します。新型コロナワクチンの接種の実施期間は、来年の3月31日までですので、接種を希望される方は早めの接種をご検討いただければと思います。接種券の再発行あるいは集団接種の予約等のお問合せについては、コロナワクチンコールセンターで受け付けております。市のホームページ、ツイッター、新聞折り込み、などでも随時お知らせしてまいりますのでご確認ください。

次に、「ミライソウゾウ会議」の参加者メンバー募集についてです。昨年も実施し、松江市の総合計画をつくる際の土台とさせていただきます。昨年は5回開催し94名の方に参加いただきましたが、オンラインでの開催でしたので、皆さまから多岐にわたるご意見はいただきましたが、議論を行うには、リアルで開催することも必要と考えています。今回の目的として、昨年のミライソウゾウ会議でいただいた具体的な意見を踏まえた上で一つ先に進みたいという思いを持っております。例えば、やりたいことがいろいろある、一緒に何かできる仲間が欲しい、まちづくりに関わってみたい、つながりがあればできる気がする、といった意見を実際にいただいています。特に若い世代のチャレンジ、そのチャレンジの実現を後押しをする仕組みをつくっていくという目的で開催します。3回のプログラムを予定しており、2回はワークショップ、もう一回はセミナーとしています。オンラインであったり、「縁雲unun」というニューアーバンホテルの中にできたコワーキングスペースで行います。1回目・2回目は、自分の夢やミライをソウゾウする、夢を持つ人同士で刺激し合いながら仲間をつくる機会にさせていただきたいと思っています。3回目については、先輩チャレンジャーに学ぶ、自分の夢についてアクションプランを立てるというプロセスを経ていきたいと考えています。参加対象は、松江市在住、在勤あるいは通学していらっしゃる高校生、大学生、専門学校または15歳から49歳の社会人の方です。これまでいただいた若者の声として、やりたいことはあるけれども何から始めてよいか分からない、一人ではなかなか勇気が出ないといった意見もありました。このミライソウゾウ会議の中で世代間のつながりを生むことができたり、一歩を踏み出す仲間が見つかったり先輩のノウハウを学べる、あるいは先輩から助言がもらえる機会にしたいと思っています。それぞれがチャレンジをしやすくなる環境を提供し、「夢を実現できるまち 誇れるまち 松江」の創造のためにぜひ皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

次に「市民みんなで!男性の育児参画応援プロジェクト」です。国の育児休業の制度が変更になり、10月から

「産後パパ育休制度」が新設されました。これは男性女性ともに仕事と育児を両立できるように、育児・介護休業法が改正されたもので、この4月から事業主が社員に対し育児休業制度の説明や取得の意向を確認することが義務化されています。そして、この10月からは育児休業制度が2点変更になります。1つ目が「産後パパ育休制度」、いわゆる男性版産休の新設です。お子さんが生まれてから8週間以内に最大4週間、28日間取得可能です。2つ目は、「育児休業の取得回数」の変更です。これまで1回しか取得できませんでしたが、夫婦ともに2回に分けて、柔軟な取得が可能になりました。期待される効果として、育児の負担を夫婦で分担することで、特に女性の負担が軽減され、女性の出産意欲の高まりや就業の継続を促進することにつながります。また、ワーク・ライフ・バランス、仕事と生活の調和、両立の実現といったところです。制度の詳細についてはお務め先にご確認ください。そして、市民みんなで男性の育児参画応援しようということで、キャッチコピーを募集しました。126の作品をご応募いただき、最優秀賞に小林さんにご応募いただいた「みんな主役の育児に「イイね!」」を優秀賞に、「応援するよ!パパの子育て」「早く帰る。おむつかえる。我が子抱える。」という2つの作品を選びました。今後このキャッチコピーを色々なところで使い、男性の育児参加を促進してまいりたいと考えています。そのために、今回、最優秀賞のキャッチコピーからロゴも作成しました。「イイね!」ポーズの親指を赤ちゃんが把握反射でつかんでいる様子をイメージしたイラストです。また育児の主体となる男性、女性だけではなく、育児を応援する職場あるいは地域の皆さん、全ての人たちに向けた「イイね!」ということになります。このキャッチコピーとロゴを活用し、市民の皆さまに男性の育児参画や応援を促すメッセージを発信してまいります。今日、私はこのロゴがプリントしてあるポロシャツを着ておりますが、市役所職員も着用し啓発を図りたいと考えています。そしてまた、島根スサノオマジックのホームゲームでもPRをする予定です。10月15日に島根スサノオマジックと秋田ノーザンハピネッツの一戦がございます。その際に、男性の育児参加、育児休業取得をPRするイベント等を開催します。ハーフタイムでは島根スサノオマジックの選手の育児体験談の紹介も予定していますので、ぜひお越しいただければと思います。

次に、国宝松江城天守防火対策事業として、天守の東側の樹木の伐採の計画についてです。この計画の背景ですが、2014年に「重要文化財松江城天守保存活用計画」を策定しました。外部の有識者の方のご協力で、保存管理、環境保全、防災、公開活用等に関する基本方針を定めています。この中で、防火管理体制、防火設備の強化についても触れております。その後、2019年にノートルダム大聖堂・沖縄の首里城と相次いで文化財が焼失し、文化庁がその対応を検討してまいりました。令和元年の「世界遺産、国宝等における防火対策5か年計画」の中で、世界遺産、国宝建造物について防火対策を取る場合には国庫補助率をかさ上げする等の措置をしております。これを受け、今年の5月に「国宝松江城天守防火対策基本計画」を策定しました。これも外部有識者の先生に委員長を務めていただき、整備後30年を経過した松江城の防災設備の更新のための総合的な防火対策計画となっております。今回の防火対策事業の目的は、国宝松江城天守を守り、将来に継承していくということ。石垣に支障がある木、あるいは園路の危険木を減らすということです。松江城の課題として、立地上、天守の近くに消防車両が寄り付けない、消火栓がある市道から本丸まで距離があり、送水までに時間がかかるといったことがあります。この解決策として、火災の早期発見及び確実な初期消火の体制整備として、火災報知機、スプリンクラーなどを最新の設備に更新します。また、火災等の原因となる要素を減らすために、延焼や危険防止のための樹木は伐採していかざるを得ないという結論に達したところです。「文化財保存・管理ハンドブック」という文化庁が監修の方針の中では、建物の近くに山林がある場合、20メートル幅の火除地を設けることが有効とされています。事業の実施

のスケジュールとして、今年度に設計、調査等を行い、樹木の伐採にもとりかかります。5年度、6年度に防災施設整備工事を進め、最終的に令和6年度末までに防災設備の更新を図ります。樹木の伐採については、松江城全体のうちの約2%弱の面積、は樹木の本数を予定しており、伐採数は3,206本のうちの49本となります。伐採の対象となる樹木については、天守のすぐ近くにあり、倒木によって天守、城壁が傷む可能性があるものを選定しています。城山公園全体の樹木の状況は、約3,000本の中で樹齢が150年以上の古木が223本(7%)、園路沿いの危険木が131本(4%)、石垣に支障がある木が485本(15%)となっており、ある程度伐採を進めていく必要があると考えています。伐採予定の49本の木は石垣支障木と園路沿い危険木です。樹齢150年以上の古木も4本あり、いずれも石垣支障木に該当し、倒木の際に天守に直接被害を与える可能性等を加味しますと、伐採に至らざるを得ないというところです。どういった景観になるのかといいますと、天守を延焼から守るために伐採をすることによって、築城当時の城郭らしい景観が蘇るといえます。大手前から天守への南側からの見学コースに加え、北側からはあまり松江城が見えないことから観光コース等にはなっていませんが、今後新しい景観が見られるスポットということで注目を浴びることも想定しています。北惣門橋から松江歴史館、塩見縄手への回遊も楽しんでいただけたと考えています。今後の予定ですが、9月28日に現地報道機関向けの説明会を行います。10月1日には市民向けの現地説明会も予定しています。そして、伐採木についても有効活用の検討をしていきたいと思っていますので、またアイデアの募集のお願いをさせていただきます。この事業を通じて、松江城を良好な状態で保存、整備し、価値を高めることで将来にわたって市民の皆さまに愛される松江城にしていきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

次に、白潟地区周辺で様々なイベントを秋にかけて開催します。まず1つ目、「シラカトコトコプロジェクト」です。白潟本町通りの歩きやすい歩行空間、そしてにぎわいのある通りの実現に向けて取り組んでいるところで、昨年度も社会実験のイベントを行いました。このときも大変好評でしたので、この秋にまた実施します。シラカトコトコプロジェクトという名前は、白潟本町商店街の皆さんからご提案いただいた名前で、地元の皆様と一緒に取り組んでいく社会実験ということになります。具体的には、金土日を中心に、歩行者が交流できる空間を創出します。車の進入をある程度規制し、歩行者の通路を広くし、山陰合同銀行の駐車場と市民活動センターの北側に、にぎわいを演出します。キッチンカーのほかに海産物、飲物を提供する場所を設け、小さなお茶会ができるような場所、そしてまた大道芸が披露できるような場所もつくってまいります。これに伴い、9月20日から10月15日の期間については終日橋北方面への一方通行とし、制限速度も30キロとします。路線バスもルートを変更して運行しますので、市民の皆さまにはご迷惑をおかけするかと思いますが、ぜひ白潟本町通りに足をお運びいただき、にぎわい創出に携わっていただきたいと思います。

2つ目が「水辺のマーケット」です。これは白潟公園の主に東側のエリアで9月の下旬から11月の月上旬まで開催します。木製の屋根を建て、これを中心ににぎわいの水辺空間をつくってまいります。飲食、物販その他アクティビティーなど多様なサービスを多様な出店者の方に提供していただきます。平日の日常的なにぎわいの創出というのも考えており、平日のミニマーケットも開催します。9月28日から11月2日までの毎週水曜日にお昼のミニマーケットとしてランチを提供します。9月28日・30日、10月5日は、夕方から夜にかけて夕方のミニマーケットを開催し、光のスポーツアクティビティーを提供します。それに加えて、週末には大きなにぎわい創出のイベントがあります。9時から13時まで朝のマーケットを3回、日、夕方5時から夜9時までの宵のマーケットを1回開催します。各

回ともスポーツアクティビティーとしてスポーツ鬼ごっこ、バランスボールの体験会なども行う予定です。

もう一つ、「ミズベリング縁日」です。これは岸公園で開催します。キッチンカーが出店し、ゴズ釣り、SUPで嫁が島に行くこともできます。そのほかにもシジミ汁の振る舞い、オリジナルマグネット・缶バッジ作り、シーウオークと呼ばれる立ち乗りモビリティの試乗会、サンセットスペシャルライブも予定されています。また、渡部印刷さんがミズベリング松江協議会に子供用のライフジャケットをご寄贈いただく予定で、10月8日のオープニングセレモニーの中で寄贈式も行い、その後のライフジャケット講習会、ウオーターアクティビティーで早速着用する予定です。

9月末から11月上旬にかけての、シラカタコトコプロジェクト、水辺のマーケット、ミズベリング縁日を白潟地区周辺で実施します。皆さま、ぜひ歩いて食べて遊んで楽しみましょう。

次は、松江市交通局、一畑電車がコラボしたイベントのご案内です。9月17日から10月30日までの土日祝日に、小学生以下は無料で乗車できるイベントです。ぐるっと松江レイクラインは除く市営バス・一畑バス・松江市コミュニティバス・一畑電車全線が小学生以下は無料となります。このイベントは3年ぶりの開催で、一畑電車も全線無料となるのは今回が初めてです。学校などで配布しているチラシの利用券を、バスや電車の運賃箱に入れると、無料となります。ぜひお楽しみください。それに関連して、松江市交通局では松江をささえるバス運転士を募集しています。我々の生活を支える基幹インフラの仕事ですので、関心のある方はぜひ運転士の採用ホームページをご覧ください。よろしくお願いいたします。

最後に、「佐陀神能ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念の神座(かむくら)」の開催についてです。10月2日、場所は鹿島町の佐太神社の昨年度に改修した舞殿です。出演は松江市の佐陀神能に加え、隠岐の島町の久見神楽、出雲市の大土地神楽、宮崎県の高千穂神楽の4つとなっており、入場料は無料です。「佐陀神能」は、松江市が世界に誇るユネスコ世界文化遺産です。佐陀神能保存会の皆さんにより約400年引き継がれていると言われていまして、能を取り入れた「特別な神楽」として、ほかの神楽への影響も非常に大きいものを持っています。神楽でユネスコ無形文化遺産に登録されているの、日本ではこの佐陀神能と岩手県の早池峰神楽の2つです。現在、この佐陀神能保存会で使用される面、衣装の修理、新調にも取り組んでおられますので、ぜひその新調された衣装等で舞われる佐陀神能をお楽しみいただければと思います。今回の神座では、5演目を演舞いただきます。次の高千穂神楽は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、アマテラスオオミカミが天岩戸にお隠れになった折、アメノウズメノミコトが岩戸の前で面白く舞ったというのが始まりとされている神楽で、この高千穂の夜神楽は五穀豊穡を祈願し、11月から2月にかけて町内の各地区で夜を徹して奉納されるというもので、今回は5つの演目を演舞いただきます。隠岐の島町の久見神楽は、県の無形民俗文化財になっております。島後にある神楽の古い形を残しながらも、佐陀神能の影響も受け発展したという神楽で、当日は3演目を演舞いただきます。出雲市の大土地神楽は、国の重要無形民俗文化財に指定されております。出雲大社の門前町での芝居興行の影響もあり、観衆を楽しませる所作が随所に見られる300年以上続く神楽で、当日は2演目を演舞いただきます。こうしたユネスコ無形文化遺産の神楽をはじめとして、国あるいは県が指定している文化財としての神楽が一堂に会して演舞される非常に貴重な機会ですので、ぜひお出かけいただきたいです。当日は子ども佐陀神能という地元鹿島町の子供たちが佐陀神能の保存、継承のために練習し披露する演舞から始まり、佐陀神能は2回出てまいりますのでぜひお楽しみください。門前市も開催し、地域の皆さんの企画で、地元の水産加工品や農産物を販売されます。また、今回佐太神社にWi-Fiを整備しました。佐陀神能の演目の内容などを公開し、今後は海外からのお

客さまにも内容が分かるようなサービスの提供もしていきたいと考えています。情報発信の強化を古い佐陀神能であるがゆえに新しいデジタル技術も活用しながら今後進めてまいります。私からは以上です。

(山陰中央新報) オミクロン株の新ワクチンの対象者に関してですが、優先対象者を設ける自治体もあると思います。松江市としては優先対象を設けず12歳以上全ての方ということですが、その狙いをお願いします。

(上定市長) 松江市では、特にその優先順位を設けず、一斉に10月以降実施します。これは必要なワクチンの数の確保が確認できており、10月1日から接種できるのは既に接種券をお持ちの方ということで、順次発送する接種券を受領してから予約となりますので、若干遅い人もいますが、基本的には10月の一斉スタートで特段支障がないという判断です。

(山陰中央新報) 供給見込みは現時点でどのぐらいの回数を見込んでおられますか。

(上定市長) 市民の皆さんに、オミクロン株の接種を受けていただけるだけの十分な供給量を確保しています。

(山陰中央新報) 政府は年内の、希望者全員の接種完了という目標を掲げていますが、松江市もそれを目指す感じですか。

(上定市長) そのとおりです。今の段階で年末までに終わる確証があるわけではないですが、市民の皆さんにこういった機会を通じて普及啓発を図り、重症化予防の観点から現時点で一番妥当と思われるワクチンですので、できるだけ早めに接種していただけるように呼びかけてまいります。

(山陰中央新報) 一方で感染状況が落ち着いてきて、社会経済活動も回復に向けてかじを切っている中で、接種への関心の低下が懸念されると思いますかいかがですか。

(上定市長) 社会経済活動を進めていく上でワクチンの接種が必要な状況にあると認識しています。コロナというものの自体が終息していくとはなかなか考えにくいので、今後、中長期的に付き合っていく上ではワクチンの接種を前提としながら社会経済活動もできるだけ通常の形、ニューノーマルと言われる日常を取り戻していくということだと思います。そういった意味でもワクチンの重要性については行政からも皆さんに分かる形で説明していきたいと考えています。

(山陰中央新報) 接種するかどうかは別として、重要性を周知していくのは必要だと思います。具体的にはどういう手段でやっていかれるお考えですか。

(上定市長) ワクチン接種の対象となる方に対する直接のアプローチ、ダイレクトメールのような形が中心にはなりますが、例えば新しいワクチン接種が始まるなどのタイミングでは市報、ホームページ、SNS等を活用して周知を図ります。また副反応や危険性というところも今の段階で提示されているデータは限られてはおりますが、今後公表されることが想定されますので、そういった情報共有もやっていきたいと考えています。

(山陰中央新報) 現状ではワクチンは3回目でも4回目でも新しいワクチンを打つとその時点で接種は終わりだと思えますが、市民の方はそのあたりの認識が薄いと感ずますが、いかがですか。

(上定市長) 今回のオミクロン対応ワクチンは1回だけという運用ですので、その周知は当然図っていくとともに、今後、インフルエンザのようにその年々ではやる可能性がある株に対応するワクチンが提供されることも想定されるので、国の動向を見ながら、できるだけ市民の皆さんにわかりやすく情報を共有することを考えています。かなり複雑にはなっているため、自分がどの段階なのかといったフローチャートにするような形で、皆さんにはわかりやすくご提供したいと思っています。

(NHK) 松江城の防火対策で、木が火災対応の支障になるから伐採することは丁寧に説明いただきましたが、消防車が近づけないとか送水に時間がかかる部分の解決策として、最新の設備ということですが、適切な初期消火についてどういったものを想定されていますか。

(上定市長) スプリンクラーなどの消防設備を最新のものに更新してまいります。例えば道路を拡幅して消防車両がお城のすぐ近くまでいくということは、文化庁の指定を受けた文化財であり柔軟な対応は難しく、その中でできることを1つずつ積み上げた上での対応ということに尽きると思います。今回の樹木の伐採によって、延焼の可能性は防げるので、総合的な防火対策を取っていくという意味で色々な角度からアプローチしていく必要があると考えています。

(NHK) いざというときは、スプリンクラーや放水銃で消化するというプロセスのところで、例えば夜間でも一人で扱えるような放水銃だとか、消防の自主防災組織のようなものを強化ですとか、どういったものを増強していかねばならないとお感じですか。

(上定市長) 現状でも、実際に出火したときにどう対応するかは計画の中で盛り込んでいます。例えば、飛騨高山の合掌造りで火が出たときなどは、おそらく建物ごとに放水銃があり、すぐに使えるような形になっています。そこまでのものが必要であるかどうかは、判断していかなければなりません。今の鬱蒼と茂る森の中にある城という状況は、どうしても出火したときの延焼や倒木の危険性があり、実際に何か起こったときに耐え得る状況にしておくために、1つずつ重ねていく必要があると思っています。今回、木を伐採してある程度防火体制の第一弾が整った段階で、もう一度全体としての防火計画を見直し、新しい環境でどういった防火体制が必要なのかということをもう一回考えていく必要があると考えています。

(NHK) かなり古い木も多い中で、切った木の利活用は考えていらっしゃいますか。

(上定市長) そうですね、伐採木をどう活用していくかといったところは今後アイデアの募集も行いたいと考えており、実際に結構な樹齢の木を伐採することになりますので、それをどういった形で使っていくかということについても考えてまいります。

(共同通信) 感染者数の全数把握の簡略化によって、コロナの感染者の発表について時間など変わる予定はありますか。

(上定市長) 今は、午前11時に前日の陽性が確認された人数を発表し、15時に詳しい情報を提供していますが、一本化する形になるかと思います。全数把握の見直しになりますが、実際は医療機関で確認された情報は市に報告されますので、皆さんに対しての情報提供は行います。

(共同通信) 昨日、知事からは3時に一本化ということでしたが、松江市はいかがですか。

(上定市長) 松江市も3時に発表します。

(山陰中央新報) ほか、いかがでしょうか。ないようですので、以上で終了します。ありがとうございました。